

令和6年度 蚕桑地区まちづくり座談会における質問・要望事項と回答
令和6年6月26日(水) 午後7:00~8:30 (蚕桑地区コミュニティセンター)

町からのテーマ【第6次白鷹町総合計画後期基本計画の策定について】

《質疑応答》

Q. DX、GXとは何か教えて頂きたい。

A. (企画政策課長) DXとはデジタルトランスフォーメーションのこと。デジタル技術、パソコンやスマホといったシステムを使って世の中をより良くしていこうという考え方。

また、GXとはグリーントランスフォーメーションのこと。今叫ばれている二酸化炭素の削減に向けて、緑を活用して色々な事業をしていこうという考え方。

Q. DX、GXとは具体的にどういう活用をするものなのか。

A. (企画政策課長) DXについては、町の地図情報をパソコンで見れるようにした。防災マップや避難所、防犯灯の位置について皆さんに見て頂くようなことをしている。DXについては、国では大きい革命的なことを指すが、市町村については、自分の出来るところから、出来るだけ、皆様の利便性に関わることを事業としてしていく形になっている。GXについては、白鷹町であればバイオマスボイラーを使って二酸化炭素を削減するといった取り組みをしている。

Q. (資料裏面・まちづくりアンケートの結果)満足度・重要度の部分で、子育て環境、子ども育成の満足度が高い結果だが、満足度が高くても出生数は少ない状況である。これについてどのように捉えているのか。

A. (企画政策課長) 現在子育てをされている方に関しては満足度が高いと分析している。ただ、それによって次のお子さんが生まれてくるかは別の話で、25歳から45歳くらいまでの女性が長期にわたって減少していることが人口減少の一つの要因と捉えている。白鷹町では最近、移住者の多くは町出身という状況。町出身の方が小学校入学前のお子さんを連れて転入されることが増えており、出生数よりも転入して小学校に入学するお子さんが増えるというのが多くみられる。人口減少の原因については調べているが明確にはわからない状況。

Q. 子供が少なく、婚姻する方も少ないという大変な状況を今後どういう形で改善していこうとしているのかお聞きしたい。

A. (町長) 時代は変わってきていると感じている。婚姻にいたる形も変わり、マッチングアプリで出会い、一緒になるケースが非常に多くなっている。県のアプリの登録料を町で負担している。白鷹町では子育てしやすい、住みやすいと言っただけだが、悪いところはアパートの部屋代が高すぎる。アパートを増やそうとやっているが、新しいところはすぐに満杯になり、古い場所は空きがある。空いている場所をどう活用していくか、安く出来るかは個人の財産であり、取り組みにくいところ。今後の課題として捉えていきたい。

Q. 会議の場に参加する若い人が少ない。将来を生きる若い人、女性の意見を聞く場を作り、積極的に意見を取り入れてほしい。若い人に伝えていくことも必要。

A. (町長) 大切なご意見として頂戴する。保育園の保護者の方々、小中学校のPTAの方々など色々な年代の方と、話し合いをさせていただいている。地域の中で課題はあると思うので、広く呼びかけてお集まりいただけるようお願い申し上げたい。

Q. 町外の人(仙台白鷹会、首都圏白鷹会等)に意見を聞く機会はあるか。白鷹町をどういう風に見て、考えているのかというアンケートをしたらいいのではないか。

A. (企画政策課長) このアンケートに関しては今住んでいる方の思いや考え方を頂き、満足度を測らせていただいた。仙台白鷹会、首都圏白鷹会といったところでも希望があれば町の施策を説明しに行ったり出来るので機会を捉えてご意見をいただきたい。

《地区の課題等》

Q. 政策の構想や方向性は出ていたが、具体的な発言はなかったと感じる。子育て支援住宅は鮎貝に16棟あるが、蚕桑にも8棟ぐらいあれば蚕桑小学校や学童の生徒数も増えると思う。基本構想の中に子育て住宅を増やすことがあるのなら、鮎貝だけでなく、蚕桑、東根辺りにも整備して頂きたい。

A. (町長) 現在住宅計画と住居計画を作っている。いかに経済動脈を長井市、あるいは山形市に繋がりを持たせるかということで一番最初に荒砥橋の開通をさせていただいた。鮎貝・

蚕桑という括りではなく西側全体をどうしていくかという括りで町づくりしていきたい。さくらの保育園は蚕桑地区から具体的な場所の要望もあり、作らせていただいた。そこから波及するものとして相当な老朽化もあり、住宅政策として神明アパートを中心に整備していきたいと考えている。子育て支援住宅について、お話はお聞きするが住宅政策としては難しいと思っている。今後の一番の課題は空き家対策だと思う。日本人の人材を集めるのは難しく、多くの外国人が働いている。白光園で働く外国人の寮も現在の2棟に加えて1棟増やしたいという考えがある。人口を増やすよりも減らさないよう頑張っていきたい。

Q. 子育て支援住宅に入居できる期限があるが、退居した後にその家族はどのような暮らしをしていくのか。退居後も白鷹町で暮らしたい方に対して、前もって住宅の情報等を提示しているのか。

A. (建設課長) お子さんが小学校を卒業する段階で出ていただくお約束がある。退居期限の半年前には今年度末で退居いただく必要がある事を事前にお知らせしている。その時に次にどこに行けばいいのかという話があれば、他のアパート情報等をお伝えしている。子育て支援住宅を退居される方はほとんどが実家に戻るか実家近くに家を建てるようなケースが多い。退居後に町外に出られた方は令和に入ってからはいないと認識している。退居が近づいた方には持ち合わせている情報を出来るだけ幅広くご紹介したいと思っている。

Q. 有害鳥獣情報について、去年はかなり多く、山口地区の方が怪我をした事例もあった。今後の鳥獣対策について考えをお聞きしたい。また、陽光学園の隣にアオサギとウの巣があり猟友会の方に獲って頂き、駆除したウを山口地区の畑に掘って埋設している。埋設地の確保が大変。有害鳥獣の処理施設がいつ頃出来るのかとアオサギやウも処理できるのかをお聞きしたい。

A. (林政課長) 去年は116件のクマの目撃情報、農作物被害の報告があった。そのうち48件が蚕桑地区、27件が鮎貝地区だった。イノシシは36件でほとんど川東側だが、鮎貝での目撃情報もあった。電気柵については町から支援している。これ以上の対策は罠だが、カメラを設置しクマの動きを確認しながら捕獲していきたいと考えている。猟友会にもご苦労をおかけしている。予算を増やし活動しやすい状態で負担にならない形で捕獲していきたい。また、処理施設については設置を考えている地区の方に説明をしようという話までは出ている。あまりコストがかからず維持管理も簡便な施設にしたい。国の支援も必要なため複数年掛けて、皆様に迷惑がかからないような施設を設置していきたい。イノシシ、クマに限らずカワウ、アオサギ、タヌキ、ハクビシンの受け入れもしていきたいと思っている。地域

の方々にもご協力をよろしくお願ひしたい。

Q. 深山の電気柵設置を地区全体で取り組むと聞いた。大きな事業をする場合、支援はどうなっているのか。地元の負担はどうなっているのかお聞きしたい。

A. (林政課長) 単独、個別の農家、複数の農家のグループの場合は三分の一の補助(上限有り)、広域の場合は国からの補助が出る。今年は候補地を4箇所選定中であり、広域でやりたい場合は申請していただき、予算内で支援していく事になる。

Q. 子ども会活動として出来る事業が減ってきており、子どもたちの体験や学びの場が減ってきている。荒砥の子供たちは図書館や町民ラウンジに多く集まっているが蚕桑地区にはそういった場がない。荒砥から遠い地区の子ども会活動に対する対策などあれば教えて頂きたい。また、小さい公民館の維持、管理が大変になってくると思うがどのように考えているかお聞きしたい。

A. (企画政策課長) 蚕桑地区は放課後児童クラブや夏休みの事業等、一生懸命やってくさっている。私の子供に関しても、近所に子どもがいないような状況だが他の地区の事業に参加させていただいている。すぐに来ることでなくても意見や提案を頂ければそれに沿った施策を考えていけると思っている。公民館の維持管理や修繕の方はコミュニティセンターで持っている助成事業を利用することで持ち出しを少なくすることが出来る。今後は公民館の合併や維持できなくなった場合の解体、処分が課題になってくると思う。解体や処分を見越して積み立てを行っている地区もあるが、地区の事情によると思うのでご相談いただきたい。

Q. 蚕桑地区の活断層や鮎貝川の氾濫、地震の多発や線状降水帯の発生など、防災の重要性が高まっている。西高玉の農業集落排水が完成すると今までの農業集落排水センターが廃止になるため、防災センターとして活用してはどうかと考えている。町の考えをお聞きしたい。

A. (町長) 平成25年に大氾濫があり、現場を見たが想像を絶する増水だった。平成26年にはコミュニティセンターで避難の経験もした。雨の場合はある程度情報が入るが、地震は予測できない。全体を見た中でどうしていくかということになる。浅立光穂センターについては修理修繕を行い地区の方で使っていただいている。光熱水費は地元で負担いただいで

いる。蚕桑地区についても地区の方でどういう利用をしていきたいか話していただき、方向性を出していただければ町としてはそれぞれ対応していきたい。また、西高玉で杉の伐倒を進めていると伺っており、大変ありがたく思っている。杉が大きくなりすぎると水も二酸化炭素もほとんど吸わなくなるそう。我々としても将来に渡って悔いを残さないものにしていく必要があると思っている。

Q. 消防施設について、山口5部が6班体制から5班体制になりポンプが一つ布川商店南側にある。施設は取り壊しをするのか区で維持をするのかお聞きしたい。現在は山口自主防災組織の可搬ポンプが入っている。

A. (総務課長) 質問頂いた件については確認をしながら方向性について何らかの形でお知らせさせていただければと思うので、よろしくお願ひしたい。